

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170503858		
法人名	株式会社 フロイデプランニング		
事業所名	グループホーム けあふる白樺		
所在地	札幌市南区藤野4条2丁目3番18号 (電話) 011-591-1133		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北一条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】 (20年11月 7日事業所記)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人 非常勤 2人 常勤換算7人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 20,000 円	
			暖房費(11~3月)15,000円	
敷金	有(72,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要(11月28日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	78歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川沿中央医院、愛全病院、小笠原クリニック札幌病院、五輪橋内科病院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者は、介護度の高い人、車椅子利用者など介助の必要な方がいるが、全員で動物園や開拓の村など外出の行事を実施し、利用者と家族に喜ばれている。ホームの造りは車椅子でも十分対応出来るスペースが確保され、安心の住まいとなっている。食事担当のパート職員を週3日配置し、職員はゆとりを持って利用者へ寄り添い、レクリエーションや屋外行事、また入浴介助など、質の高いケアをしている。職員の年齢層が幅広く、それぞれの役割が活かされ、利用者との係わりが良好なホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の取り組みを期待する項目については、改善に向けた取り組みがされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価が初めての職員が多く、理解がまだ十分とはいえない点もありますが、項目への学びやガイドブックの参照により、これからの取り組みに期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年に4回開催され、地域の町内会長、民生委員などが出席していただき、意見を出し合っている。主に行事の報告をし、地域住民の理解が深まってきています。活発な意見が寄せられ、運営に活かす取り組みがなされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族のホーム来訪時には、出来るだけ素直な話を聞くように配慮している。その内容によっては、より良いケアに活かしている。介護計画について話し合うときにも意見をいただいています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは町内会に加入し、行事に参加したり、ホームの行事に近隣の住民の方々に参加していただいたり、相互に交流があり良好な関係作りがなされている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣にある系列のグループホームと共通の理念を掲げ、管理者や職員は地域との関係性を十分理解しながら、ケアサービスに取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月職員が参加する会議などで、実践に向けた取り組みの具体化を話し合い、日々努力されています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会に加入し、行事に参加したり、ホームの行事に近隣住民の方々に参加していただいたり、相互に交流があり、良好な関係作りがなされています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員が手分けして各項目を検討して作成しています。		

札幌市南区 グループホームけあふる白樺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回ほど開催し、主にホームの行事の報告をし、様々な意見や問い合わせがあり、地域住民の理解が深まっています。活発な意見がよせられています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は自ら行政と連携を持ち、指導をいただきながら、サービスの質の向上に活かしています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事などの写真を盛り込んだ通信を作成し、家族にお送りしている。また家族がホームに来院した際に、利用者の様子を詳しく報告し、健康面の連絡は電話を利用する場合もあります。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来院時に話されたことは、耳を傾け、より良いケアにつなげている。また苦情相談もホームや行政の窓口を明確にしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人内の異動はほとんどありませんが、職員の退職がある場合は、利用者への影響がないように慣れた職員がケアに当たっている。最近落ち着いた状況となっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員のスキルアップは重要と認識し、内部研修では外部講師を招聘して行なうなど、積極的に取り組んでいます。また、外部研修の必要性は十分認識していることから、今後検討を期待します。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のほかの業者と連携をもち、交流の機会を確保している。ほかのグループホームの行事に参加するなど、管理者のレベルでは実施されています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に慣れていただくため、事前の見学など、利用者や家族と話し合いを深めて納得していただいてから、入居していただいています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は出来るだけ利用者に係わって寄り添い、一緒に過ごす時間を多く持つようにし、喜怒哀楽をともにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とふれあいを通して、会話のみならず希望や意向を汲み取る努力をし、家族の協力もいただきながら、利用者本位に取り組んでいます。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員を担当制にして、より良く暮らすために、ケア会議で意見をだし、話し合いを深めている。さらに、日々の暮らしの記録に介護計画との比較検討を記載し、職員の共通理解としています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、利用者一人ひとりについて検討し、見直しは3ヵ月毎に介護支援専門員が中心となって介護計画を作成している。家族の同意をいただいています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況や要望で、通院や外出支援の取り組みを積極的に行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から往診や訪問看護師は週1回、連携を取り実施され、適切な医療を受けられるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして、重度化した場合の指針書を利用者全員と取り交わし、現状に合わせた介護方針を家族や医療機関と相談をして取り決め、支援をしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	情報の提供には同意書をいただき、取扱いに注意をしている。利用者への対応や言葉づかいに配慮し、プライバシーを損ねることのないようにしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が優先するのではなく、利用者本位にペースを大事にして普通の暮らしを継続しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居間とは離れた場所にある食堂で、自立の利用者と要介助者と別のテーブル配置で、それぞれ職員が席について会話を楽しみながら食事をしている。片付けなどは利用者にも手伝っていただく場面もあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められた曜日や時間にこだわらずに、利用者の希望や体調に合わせ、入浴支援をしている。概ね週2回で、とくに介護度の高い人には、2名介助で対応している。また1階の特殊浴槽も活用して支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の家事の役割は、利用者一人ひとりにあった作業を喜んでしていただけるように支援している。テーブルふき・洗濯物たたみ・食器ふきなどしたり、室内で職員を相手に卓球をするなど、楽しんで過ごしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩などの支援をしている。車椅子利用者も参加して、全員で動物園や開拓の村など、外出行事を実施し、利用者の楽しみごととなっています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの一階は高齢者下宿となっており、玄関は共有である。外出傾向を示す利用者は現在はいなく、夜間のみ施錠しています。		

札幌市南区 グループホームけあふる白樺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力をいただいて、避難訓練を実施している。またホーム内の消防設備 日常自主検査票を作成し、毎日点検をしています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が立案し、バランスの良い食事を提供して、摂取量などの記録もされています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の部屋はガラスが多く使われ、見通しがよく、利用者の共有の場もゆったりとして、使いやすい造りとなっている。生活感や季節の雰囲気が至るところにみられ、利用者は居心地よく暮らしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の対応がスムーズに出来るスペースがあり、馴染みの家具などを配置して、落ち着いた居室となっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。